

科目名	臨床医学総論Ⅱ ①						授業の種類	講義	必修・選択		必修
授業回数	30	回	時間数	60	時間	2	単位	配当学年時期		2年	前期
【授業の目的・ねらい】 現在の医療現場では多くの医療職が関わるのが特徴である。臨床工学技士はこの「チーム医療」を担う医療職の一員として、患者の情報を共有するための医学的知識が必須である。また検査や治療により深く携わり診療の補助を担うためには疾患に対する理解が必須となる。											
【実務者経験】 臨床工学技士として福岡市立こども病院等で、新生児や小児の人工心肺業務や呼吸・集中治療室業務に従事経験。											
【授業全体の内容の概要】 主に外科系疾患の原因と病態変化、検査、治療などについての概要を解説する。											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・外科系疾患の原因と病態について概要を説明することができる。 ・各種検査値、疾患と治療方針についての知識を身につける。											
回数	講義内容										準備物(教材)
1	授業ガイダンス。学習の進め方について理解する。										
2	外科学における一般的知識について身につける										
3	侵襲と生体反応についての知識を身につける										
4	栄養療法の概要について説明することができるようになる										
5	呼吸器感染症についての知識を身につける										
6	COPDについて説明することができるようになる										
7	呼吸不全とその治療について説明することができるようになる										
8	肺循環疾患とその治療について説明することができるようになる										
9	血圧と関連疾患について説明することができるようになる										
10	血管病変と冠動脈疾患について説明することができるようになる										
11	冠動脈疾患と弁膜症についての知識を身につける										
12	大動脈疾患と不整脈についての知識を身につける										
13	先天性心臓疾患についての知識を身につける①										
14	先天性心臓疾患についての知識を身につける②										
15	食道疾患についての知識を身につける										
定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学講座 臨床医学総論、篠原一彦ほか、医歯薬出版株式会社 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章ほか、金原出版株式会社											
【準備学習・時間外学習】 ・事前に教科書に目を通して講義に臨んでください ・病名、診断と治療を関連づけて覚える必要があります。十分な復習を行ってください。											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 小テストを30点、中間テストを30点、定期試験を40点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する											

科目名	臨床医学総論Ⅱ ②						授業の種類	講義	必修・選択		必修			
授業回数	30	回		時間数	60	時間	2	単位		配当学年時期		2年	前期	
【授業の目的・ねらい】 現在の医療現場では多くの医療職が関わるのが特徴である。臨床工学技士はこの「チーム医療」を担う医療職の一員として、患者の情報を共有するための医学的知識が必須である。また検査や治療により深く携わり診療の補助を担うためには疾患に対する理解が必須となる。														
【実務者経験】 臨床工学技士として福岡市立こども病院等で、新生児や小児の人工心肺業務や呼吸・集中治療室業務に従事経験。														
【授業全体の内容の概要】 主に外科系疾患の原因と病態変化、検査、治療などについての概要を解説する。														
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・外科系疾患の原因と病態について概要を説明することができる。 ・各種検査値、疾患と治療方針についての知識を身につける。														
回数	講義内容												準備物(教材)	
16	胃腸系疾患についての知識を身につける													
17	肝疾患の原因と治療について説明できるようになる													
18	胆道、膵臓疾患についての知識を身につける													
19	集中治療における基本的知識について説明できるようになる													
20	ICUでの患者管理についての知識を身につける													
21	救急医療とICU治療における臨床工学技士の視点を身につける													
22	麻酔の目的と概要について説明できるようになる													
23	麻酔法とモニタリングについての知識を身につける													
24	免疫の概要とアレルギー疾患について説明できるようになる													
25	生体における免疫系と免疫不全について説明できるようになる													
26	外傷と関連病態についての知識を身につける													
27	多発外傷についての知識を身につける													
28	眼科疾患の概要と治療についての知識を身につける													
29	皮膚科疾患の概要についての知識を身につける													
30	授業全体のまとめと復習を行い、筆記試験の準備を整えることができる													
定期筆記試験														
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学講座 臨床医学総論、篠原一彦ほか、医歯薬出版株式会社 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章ほか、金原出版株式会社														
【準備学習・時間外学習】 ・事前に教科書に目を通して講義に臨んでください ・病名、診断と治療を関連づけて覚える必要があります。十分な復習を行ってください。														
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 小テストを30点、中間テストを30点、定期試験を40点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する														